

町スポーツの力強い発展を誓う

町体育協会が創立60周年を迎える

鶴田町体育協会（吉田保之会長）では、創立60周年を迎えたことを記念する式典を2月18日（日）、町国際交流会館で開催しました。式典には協会に加盟する各スポーツ団体の関係者ら約200人が出席し、節目を祝うとともに、同協会のさらなる発展と地域スポーツの振興に向け気持ちを新たにしました。

鶴田町体育協会は、昭和32年に鶴田町連合青年団を会員に設立し、同39年に青年団から独立し発足しました。

現在は、25のスポーツ団体が単位協会として加盟し、会員は1000人を超えています。

活動としては、津軽富士見湖一周マラソンや町民ふれあいスポーツフェスティバルの開催をはじめ、各協会による町民スポーツ大会、各種スポーツ教室の開催や指導、学校部活動での指導など、町におけるスポーツの普及振興と技術向上を図るとともに、町民の体力向上および健康増進に努めています。

さらに、市町村対抗青森県民体育大会では、町村の部で、12年連続、23回目の総合優勝を成

し遂げたほか、各種世界大会や全国大会で活躍する選手が多く輩出されており、まさに「スポーツの町・鶴田」として輝かしい成績を残しています。

式典で、吉田会長は「60年の永きにわたり、活動を続けてくることができたのも、関係各位の皆さまのご協力やご支援の賜と心から感謝している」と式辞（写真①）。相川町長は「今後もスポーツを通じて町の基本目標である「健康で共に支え合う住みよいまちづくり」の牽引役として、その活躍を大いに期待しています」と祝辞を述べました。このほか、町体育協会の活動に貢献したとして、町ゲートボール協会、町バドミントン協会、町柔道協会に表彰状が贈られ、その功績をたたえました。

受賞者を代表して、町ゲートボール協会の渋谷律さんは「60周年という節目に栄えある表彰を受けましたことは身に余る光栄です。このような栄誉を受けたことは町をはじめ、諸先輩方のご指導、励ましの賜と心から感謝しています」と謝辞を述べました（写真②）。



大相撲元小結 舞の海秀平氏が講演

式典前には、大相撲元小結の舞の海秀平氏による講演会「可能性への挑戦」が町農村環境改善センター「豊明館」で開かれ、約400人が舞の海氏のユーモアあふれる話に聞き入っていました。

舞の海氏は大相撲の世界に入った理由について、「元々は高校教師になるつもりだったが、たった一度しかない人生をどう生きていこうか、今しかできないことに挑戦していこうと考えた結果が大相撲だった」と述べました。

また、師匠の故佐田の山親方（出羽海部屋）からは、『勝ってもいばるな。負けてもひがむな。自分の努力が足りないだけだ。勝負が終わったらふてくされた態度で土俵を見るな』『勝った力士は相手を敬い感謝し、負けた力士はもう一度鍛え直してきますという気持ちで礼をして前を見なさい』などと日頃から精神的なことをよく言われた」と現役時代の思い出を語りました。

最後は来場者に対し、「何か毎日笑うことを見つけていつまでも元気に生活してほしい」とメッセージを贈りました。

講演後には、感謝の気持ちを込めて、鶴田相撲クラブの長内風道君（梅沢小学校）が代表でお礼の花束を手渡しました。

写真①：講演をする舞の海氏 写真②：花束を贈呈した長内君（右）

